



《イースターメッセージ》

この日とともに喜び祝おう

主教 アンデレ 大畑喜道



主のご復活をともにお祝いできることを嬉しく思います。「今日こそ、主が造られた日、この日とともに喜び祝おう。」(詩篇 118・24) もちろん天地創造の初めから毎日が神が創造された日ですが、今日は、いつにもまして特別に、そう宣言し、そう歌い、そう喜びを共にする日です。神の右の手は高く上がり、その右の手は力を示すそのことを、すべての人と分かち合う喜びの日です。私達はなかなか全ての罪を赦し勝利して下さったところに立つことができないのが現実です。暗い穴の中に入れてしまわれたように、恐ろしい不安の中に閉じ込められ奈落の底に突き落とされたように「あの問題は どうしよう。これはどうしたらいいのか。こんな状態で神様はもう何も答えてくれない。見捨てられたのではないか」と思いめぐらして、いつの間にか顔も心も暗い状態になってしまっ、人間の思いをはるかに超えた現

実が横たわっています。しかし教会に集うものは皆、「主はよみがえった。勝利して下さった。」と心の底から言い合える者になりたいと思います。イエスは公生涯のなかで、何れ度もご自身の受難とそれに勝利されることを弟子たちに話されてきました。(ルカ 18・31 (33 他)) この素晴らしい約束を聞いていたにもかかわらず、圧倒的な自分の想像を超えるような醜い十字架の出来事の前にしたときに、弟子たちははりじりになり、打ち砕かれ絶望しました。最初に復活の出来事に出会ったのはガリラヤからイエスに従ってきた女性たちでした。彼女達はいつもイエスと共にいて、イエスと共に苦しみを乗り越えて、人々がイエスから離れていった時でもなお、イエスに従って十字架にまでもついて行きました。しかし復活の朝、その彼女達がイエスの墓に行った時に、墓が

開いていてそこにあるはずのイエスの体がない。それを見た彼女達は『とほうにくれた』のです。素晴らしい約束を聴いていながら、そのときは即座にその現実を受け止めることはできませんでした。これは彼女達だけではなく、私達の姿でもあります。素晴らしい約束を聞いていても、それが力にも希望にも喜びにもならない。イエスの言葉を本気になって受けとめられていない。今日のこの日、ご一緒にイエスによって示されたイエスの言葉を本気になって受け取り、希望と喜びをもって立ち上がることができませんように。神は必死になってイエスについてきた女性たちでさえ、イエスの言葉をしっかりと理解できないことを十分に送っています。まばゆいばかりの光の中で、彼女達は頭を伏せるしかなかった。一体何事であるのかと恐れおののくほどのまばゆい光があった。そして天の使いの言葉に『あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのか。ここにはおられない。よみがえられた。まだ

ガリラヤにおられたところ、お話しになったことを思い出しなさい……。』彼女達は自分の理解できる範囲の中だけで判断してきた。墓の中で死人のイエスを見つげようとしていました。私達もしばしば同じことをしてしまいます。敗北の中にしかイエスを見ない。現実には苦しいこと、悲しいこと色々な出来事があります。その出来事に圧倒されてしまって「神様は本当にいるのだろうか。もう神様は私を見捨てたのだろうか。神様は死んでしまったのであるうか」。そんな思いの中で一生懸命に探しても喜びを見出だすことはできません。人の目には不思議に見える出来事が起こっているのです。自分神様から遠く離れて地の果てに感じるように感じても、そこに神はおられます。私達が自分勝手に「敗北」と思っているから敗北にしか見えないうのです。神は常に寄り添い、そのことを本気で信じていくことが出来るようにとみ使いを送って下さっています。その恵みに気づき、復活の信仰に生きることが出来ますように。

との座談会

若手・信徒と教役者



須賀義和（以下「須賀」） 今日

は、「若手信徒と教役者の座談会」にお集まりいただきましてありがとうございます。この会は、教会の中で20代、30代の方々がどのような視点で教会を見ているのかを知っていただき、各教会の宣教方法を考える際に活用いただければと企画したものです。最初に自己紹介をお願いします。

太田英二郎（以下「太田」） 太田英二郎です。東京聖マルチン教会に所属しています。30代の会社員です。幼児洗礼で堅信礼は中学生のときに受けました。教会では、日曜学校を担当しています。

長谷川卓（以下「長谷川」） 長

谷川卓です。神田キリスト教会に所属しています。30代の派遣社員です。2年前に洗礼と堅信礼を受けました。教会では、聖書研究会を主宰しています。

新田紗世（以下「新田」） 新田紗世です。浅草聖ヨハネ教会に所属しています。20代の大学生です。幼児洗礼で、堅信礼は中学生のときに受けました。教会ではオルターギルドを担当しています。

卓志雄（以下「卓」） 卓志雄司祭です。30代です。練馬聖ガブリエル教会の牧師をしています。また東京教区の宣教主事としています。

須賀 今日進行をします須賀義和司祭です。40代です。

◇直球で誘われたのがきっかけ
須賀 何がみなさんを教会に繋いでいるのでしょうか。

太田 父の影響が大きいと思います。小さいときから家族で教会に通っていったので、自然に教会に行くようになっていきました。

長谷川 僕の場合は、当時の牧師が、通い始めて数ヶ月経った

頃、「そろそろ洗礼を受けませんか」と直球で誘われたのがきっかけでした。この誘いがきっかけで真剣に洗礼を考えるようになりました。

新田 中学生までは、一週間の区切りのような感じで通っていましたが、今はゆっくり休めるのが日曜日くらいで、教会の活動は、土曜日のオルターギルドをするくらいです。

◇自分と違う世界だと思われる
須賀 クリスチャンではない友達にとって、教会とはどんなところだと思ってるのでしょうか。

長谷川 学生のときに、カルト集団の事件やトラブルが多発していて、「教会」というと怖いイメージがありました。

新田 他の教会の礼拝に出席したとき、改めて「ああ、教会って宗教だったんだ」と再認識しました。

太田 自分と違う世界だと思われているのかも知れませんが、須賀 会社や学校で自分がクリスチャンだということを言っていますか。

長谷川 会社で言っています。ただ、小中高大とキリスト教系の学校に通っていたのに、クリスチャンではない同僚に質問をされ、答えられないこともあり、もっと勉強しなくてはと思っていました。

新田 自分から積極的に言うわけではないけれど、聞かれればクリスチャンだと言っています。クリスチャンは有名な学校を持つていることもあって、他の宗教よりも聞こえは良い感じがします。

須賀 「聖公会」をどのように説明していますか。
新田 誰かから「カトリック」と「プロテスタント」の間と聞いたことがあったので、そんなふうに答えています。

長谷川 僕は英国国教会とかアングリカンとかいっています。バザーのとき外国人にどこの教派か聞かれ、アングリカンと答えたら通じました。

卓 昨年のウイリアム王子の結婚式以降、説明しやすくなりましたよ。

◇信仰の継承は必要

須賀 どうしたら一般の人が教会に入りやすいと思いますか。

長谷川 家族や仲間通しの繋がりが強いので仲良しで固まりやすく、初めて教会に訪れた人が疎外感を感じてしまうような気がします。

太田 新しい人が来るのは嬉しいはずなのに残念ですね。
新田 わたしも代々いる信徒ではないから、イースターやクリスマスなどのときに、久しぶりに集まった家族だけで写真を撮る風景を見て寂しく思うことがあります。

太田 僕はロシアに3年程いたのですが、ロシアでは誰でもいつでも教会に入って祈っています。日本でもヨーロッパの教会のように聖堂がモニュメントのようであったなら、一般の人が自由に入りやすいと思います。

卓 家族で固まること自体は悪いことではないと思っています。なぜなら、信仰の継承は必要だと思うからです。現状は、家族の中ですら信仰の継承ができていない状態ではないかと思っています。

太田 20代、30代は人生の転機の時期で就職したり、家族を

もつたりと変化が大きいため、教会から遠ざかってしまうのではないのでしょうか。

新田 わたしの通っている教会は遠くから通ってくる人が多いと思います。

太田 本来は近くの教会に通うべきだけど、僕自身何かの事情で遠くへ引越しても、今所属している教会に通うような気がします。

新田 わたしも、通えないところへ引越しても、教籍は今所属している教会に残すと思います。

卓 以前、教区で教会ごとの信徒の地元率を調査したことがあり、教会によってかなりの差があったと記憶している。

太田 教会の繋がりや分担がありますから、教会を移ろうと考えるにいいのではないのでしょうか。

◇集まる場所と時間を

須賀 教会にして欲しいことはありませんか。

長谷川 平日の夜に聖書研究会を開いて欲しいです。

須賀 やっているところはありますけど、集まりが悪くて続かないのが現状ですね。

太田 平日は、個人で聖書を読んで、週末に聖書研究会を開いたらどうでしょうか。

新田 わたしも、聖書研究会をやりたいのですけれど、なかなか企画をする段階までいいないです。

卓 「東京の宣教を考える会」で夜に懇親会があつたのですが、とても多くの方が集まってくれたのですよ。実施後のス

タッフ会議で、信徒同士の交わりを深める集まりが定期的に行われればいいのでは、との意見が多くでました。みんな、誰かと話したいし、会いたいと思っているのだと思います。

新田 聖書研究会も大事だけれど、自分自身が信仰を見つめ直す必要もあると感じています。そんなときに、信徒、未信徒に限らず話せる場と時間は必要だ

と思います。

須賀 ある教派のクラスに参加して洗礼、堅信礼を受けた人がいました。このクラスは、一年のプログラムで復活日に洗礼をするという一連のプログラムでした。

ところで、東京教区について意

識したことはありませんか。一同 あまりないですね。

長谷川 僕の住んでいるところは、北関東教区の管轄なのですが、通うのには、東京に出てきた方が、便が良いので今の教会に通っています。そこが東京教区だという程度です。



◇まずは情報発信を

須賀 20代、30代が来やすい教会のイメージは、ありますか。

新田 変に若者に媚びずに礼拝を中心に堂々としていて欲しい。伝統はあるのだから。

須賀 説教とか難しいですか。太田 難しい説教が多いと思います。

新田 たまに別の先生が司式な

さつしていると、どんな説教をするのだろうかと思います。

一同 思いますね。

卓 教会が手本にしなければならぬのは、「旭山動物園」だという話を聞いたことがあります。この動物園は、人もですが、動物も楽しんでいます。教会も、信徒も信徒でない人も楽しめる環境を作って行く必要があります。

新田 まずは情報発信をした方がいいと思います。教会の中で何が行われているのか、外部には全く伝わっていません。以前、お友達から「礼拝って何」と聞かれたり、「拘束時間は何時間なの」と聞かれたりしました。

今はカルト教団の影響で、一度教会に入ったら一日中拘束されるのではないかと思う人も結構多いと思います。

長谷川 スピリチュアルブームの中、カルト教団やスピリチュアル的な催し物には人が集まるのに、聖公会はスピリチュアルな者を求めている人たちの受け皿になっていないような気がします。

太田 結構、教会のつきあいが重たいと感じている人もいるの

で、もっと出入りが自由な環境も必要なのではないでしょうか。

新田 礼拝の日時などを詳しくホームページに掲載する必要があるとあります。わたしたちの世代は情報をホームページから得ている世代です。近くに礼拝を行っているところが検索できれば、行こうかということになります。

須賀 そろそろ時間です。今日は、ありがとうございました。(座談会を終えて)

今回の企画は、なぜ教会には20代、30代が少ないのかという疑問から生まれました。ここに参加された信徒の方は、比較的教会に好意的な立場の意見が多かったと思います。ただ、20代、30代というのは、就職、結婚、出産など大きな変化を経験する世代です。人生の中で、最もとまどいと喜びと驚きを感じる世代でしょう。

教会が、そんな大波の中で生きる世代に対して、どんなメッセージを伝えられるのか、果たす役割の大きさを感ずります。

(まとめ・文責 広報)

司祭と語りつ (その1)

司祭 佐々木道人

昨年アンケートの中で「司祭の紹介を」というご要望が多くありました。そこで広報委員会では、その教会の信徒の方にお手伝いをいただき、お話を伺うという形で、その人となりを紹介していくことにしました。

一回目として、聖ルカ礼拝堂立教女学院と20年以上チャプレンとして働られ、4月から神愛教会に赴任された佐々木道人司祭に信徒の津田孚人(たかと)さんと渡辺悦子さんからお話を聞いていただきました。

—先生は聖書の絵を描かれますよね。

佐々木 前はよく描いていましたが、最近は時間がありませんね。ただ、描いている時は言葉を使う脳と違うらしく気持ちいいです。

—独特なタッチの線の絵を描かれますか。

佐々木 あれは、小さい頃お習字の先生が「生きた線を息継ぎなしに、一気に書きなさい」と言われたことと、大学

の絵の先生の影響ですね。
—先生は下町のご出身とお聞きしましたが。

佐々木 神田の錦町で生まれました。

—江戸っ子の中の江戸っ子ですね。下町生まれの影響とかありますか。

佐々木 よく神田明神の御神輿を担いでいました。影響といえば、やはり口の悪さですかね。嫁さんは京都出身なので、余計にそう感じるみたいです。

—先生の働いておられた立教女学院は山の手ですが、話しくいという事はなかったですか。

佐々木 生徒たちは、礼拝で話している時と普段の会話では違和感があったでしょうね。—礼拝中に生徒さんたちは、真面目に聞いていましたか。

佐々木 それは眠る人もいます。でも、むしろ6百人の生徒から顔を上げられてじっと見つめられる方が変ですね。

それより私は自分の中を掘り進んで勝手にしゃべるから、みなそれぞれの方を向いて、自分の深みに沈潜して聞いて

て、という感じで話していました。

—今まで大勢の人の前でお話することが多かったと思いますが、神愛のような少ない人数を相手にする時とは違いませんか。

佐々木 女学院でも小さな会を開いていて、たまたま出席者が一人という時もありました。そんな時は、その人と貴重な時間が過ごせるし、お互いが満ち足りた思いになります。

—特にこの一年は、学校と教会とで、大変忙しかったと思えますが、ご自身の時間、趣味の時間など持てましたか。

佐々木 まあ牧師は忙しくても、のんびりしていると想像しきれないですね。私のはのんびりと人と過ごす時間がとても嬉しいし、そういう意味では人と話すのが趣味みたいなものです。

—それはとても牧師に向いていますか。

佐々木 人と会って話を聞いていると、私は山歩きや散歩も好きですが、そのようないろんな風景を見させていただいている気持ちになります。へ

《4月の奉献先から》

国際子ども学校 (ELCC)

～変遷する働き～

1998年にELCCを開校した時点では、あくまでも就学できない子どもたちのための緊急避難場所としての学校でした。

2002年になると、名古屋市は外国人登録を条件に在留資格を問わず、就学を認めるようになりました。

そこで、地域の小中学校への積極的な送り出しと、在留特別許可取得の支援を始めました。これまで8家族26名が許可を得ています。在留許可を得た子どもたちは家庭を持つたり、就職や進学をしたりと、それぞれ地域に根ざした生活をしています。一方で外国人登録をしないまま生活をしている家族もいます。



色々な問題を抱えつつも、それぞれの生活が次第に落ち着いて来たように思われますが、ここに新たな問題が生じていま

す。2009年に可決された、入管法・入管特例法・住基台帳法です。これは、在留管理法

国に一元化して強化するもので、3年以内の実施を旨としています。この3年目を今年7月に迎えるのです。在留資格のないまま就学している子どもたちや、特別在留資格の取得者に対して、いろいろな形でのあぶり出しが行われ、

現在の、親が働き子どもは学ぶ、という当たり前の生活が脅かされる懸念が大いにあります。

政府が「不法外国人の半減政策」を実施した2003年には、複数のELCC

の子どもやその家族との悲しい別れを経験しています。法制度によって、子どもたちの生活が翻弄されないよう、また、安心して将来の夢が語れるような環境作りも、私たちの大切な働きなのではないかと思えます。

名古屋学生青年センター

池住 圭

「先生は、どんな人が牧師に向いていると思われませんか。」

佐々木 どういう人が向いているかはわかりませんが、私の場合には35才で神学院に行き、当時のスタッフに丁寧を受け止められたという印象があります。それは世の常識とは違う深い受容と、厳しいチャレンジに出会ったということだと思います。もし牧師になる訓練を受けようとする人は、その両面受容と試練を受け止め大切に、鋭敏な感性と粘り強い体力が必要だと思います。

―聖路加にいらしたときは、ご病気の方と接する機会も多かったと思いますが、私なんかお見舞いに行つたとき、どのように声をかけたらよいか迷うのですが。

佐々木 よい言葉をかけるといふより、まず腹を決めて聴く姿勢をとれるかということでしょうね。すると、経験的には、逆に患者さんが語り出すのに立ち会う機会を与えられることになり。以前末期癌の方を初めて訪問した時、その方が小さな冷蔵庫から冷たいお茶をだして、私を

もてなしてくれました。夏の暑い日でしたから、たいへん嬉しくて、そうなる、相手も喜ぶみたいで、後は何もいらないと思いました。

―それは素敵な経験ですね。佐々木 また、自ら望んで医者から告知を受けた直後の20歳の娘さんの所に行った時のことです。医師も両親も部屋



から出て行って二人だけ残されました。本当に何も話せないと思いましたが、とっさに、携帯していた私の亡くした長男の写真を見せて「この子といつも一緒なんだ」と話をしました。すると彼女は写真を手にとって見つめ「なんて可愛いんでしょう」と言ってくれたんです。その時、こ

れまでにない慰めを私は受けました。その後、彼女が自宅で亡くなる直前、私に顔を向け「まだ頑張らなきゃいけないのですか」と聞くわけです。そばにいる医者もナースもどきつとして、でも「もういいよ」とは言えないですよ。そんな時、これは私の仕事だと思

いは「あなたが十分頑張ったことは、みんな知っているよ、だから大丈夫だよ」と答えました。彼女はそれから数時間たつて亡くなりました。

―牧師は厳しい現実と立ち会う機会が多くなりますね。

佐々木 そう、牧師は何もできなくなつてから呼ばれることが多いと思います。そんな時、その人にとって救いは、してもらふことではなくて、対等の人間として触れ合えることかなと思つた。そして、むしろ、その方自身が家族や友のために祈ることを支えるのが牧師の仕事かなと思つたのです。残された家族は、去つた者に祈られていたというところを知る時、この世を生きぬく力になるのだと信じています。(文責・広報委員会)

《5月の奉獻先から》

NCCの活動

NCC (National Christian Council in Japan 日本キリスト教協議会) は設立から今年で60余年となります。NCCには、教会(教団)とキリスト教関係団体が加盟しているのが特色で、世界の多くのNCCが「教会協議会」であるのに対して日本のNCCは



「神よ 私たちを和解を進める者にして下さい」です。またエキュメニカルサンデーは聖霊降臨日にキリスト教の一致を祈る日として制定されています。エキュメニカル運動の目標は、伝統的には、キリストにおけるあらゆる被造物の救いと

の課題を担っていくことを目指しています。

NCCではエキュメニカルカレンダーを作成し、加盟教会・団体や関係団体等を覚えて、共に祈りを合わせています。アジア祈祷日は、アジア・キリスト

教協議会(CCA)の前身であ

一致にあるとされてきました。21世紀のエキュメニカル運動は、さらに、キリスト教以外の他の宗教的伝統との対話、貧しい者、女性たち、虐げられる者との連帯を必然的に求めることにつながっていきます。

日本キリスト教協議会
総幹事代行事務取扱 上田博子

ベビービショップ(新任主教)

カンタベリー研修会

主教 大畑喜道

1月末日、英国カンタベリーの大聖堂で行われた、新任主教の研修会に参加させていただきました。叙階されて2年目までのベビービショップたちが世界中から集まりました。

当初、どれほどの主教がこの1、2年に按手されたのだろうかと思っておりましたが、実に28人も主教たちが集まりました。多くはアフリカ諸国

からの主教たちで、アジアからは私とインドとスリランカの主教だけでした。当初は普段第一言語が英語の世界の中で生きている彼らと十分に討議するということはできないというフラストレーションに陥っていました。共に祈り、共に聖書を分かち合い、素晴らしいときを共有させていたできました。朝の礼拝、聖餐式に始まり、午前中は聖書研究とセッション、午後も講義と夕の祈りというハードなスケジュールの1週間でした。1日はロンドンに行き、ラン

ベスパレスでカンタベリー大主教からお話をいただきました。「主教職とは何か」「宣教について、聖公会の5指標」「聖公会の伝統」「主教の役割」「主教の礼拝」という様々な課題やテーマについて話し合いがなされました。一つ一つについて詳細な報告をすることはできませんが、新しい気づき、そして力づけを受けました。

言語の壁があり、日本はどうしても自分から世界に羽ばたいていくことは少ないし、また世界の様々な問題や課題を共有することができず、自分の問題だけに悩んでしまっています。自分ひとりで悩んでしまいます。しかし聖公会という世界大の大きな広がりの中で互いに祈りあい、励ましあっていることを実感として感じられました。そして何よりも遠く離れていても私たちのために日々祈ってくださっているのだということは大きな励みでした。日々の祈りの時や夕の礼拝において聖歌隊は歌います。それは教会が共に全世界に向かって神の

愛の宣言を行っている時のような感じでした。「祈っているぞ、一緒に悩んでいるぞ、あなたの矛盾を全て神はご存知ですよ。勇気を出しなさい。祈りの力を信じなさい。」そんな声を聴いたように思います。教会や主教の役割、責任と大切さを実感しました。

エマ才途上の物語を考えて見ましよう。十字架にかけられたイエスのことを思い、失意のどん底にあった二人の弟子。彼らに近づいてきて、一緒に歩いて下さったのはイエスでした。ともに食卓を分かち合うときにイエスがともに歩いてくださった事実がともに歩きます。私たちは常に誰かと共に歩き、聖書のことを語り、食卓を分かち合うときに、イエスが共にいてくださることに気づけます。教会のとても大切な姿がここにあります。聖書のみ言葉を語り続けて、食卓を分かち合うというきわめて基本的なことを通して私たちは力づけられることをもう一度確認し、これからも教区の皆様と福音宣教のためにまい進したいと思えます。

【司祭の101冊】

『無痛文明論』(森岡正博)

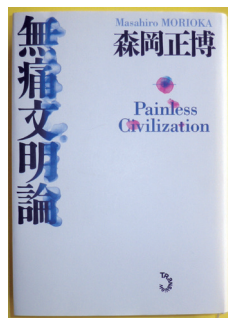
トランスヴェール刊

司祭 長谷川正昭

苦しみや痛みを経験するのは誰でも避けておりたいというのが人情である。現代文明というのは、そういう経験をできるだけ遠ざけようという仕組みが張り巡らされた社会なのでないかというのが著者の問題提起であり、集中治療室でチューブと点滴で延命措置を施されている患者がその象徴であるという。

痛みと苦しみを回避し、快よいことだけを追求しようとする社会のなかで人間はかえってよろこびを見失い、生きる意味を見出せなくなっていると著者は主張する。このような無痛文明の巨大な奔流にどのように抵抗し、それと戦うことが現代に生きる私たちにとっての急務なのだというのである。

このような大胆な視点から現代のさまざまな問題が分析され、微に入り、細にわたつ



て、論じられていくが、きわめてわかりやすく、読みやすい。450ページという大部におすことが出来る。スリリングな展開に巻を置くことができなほどである。著者は大阪府立大学で生命学を教える若き哲学者。

2003年の初版だが、その時に読み、最近読み直してあらためて凄い本だと思った。異様な説得力があつて惹きつけられるし、タイトルも刺激的。熱を帯びたアジェーションの

ような叙述のスタイルにあやうく説得されそうになるが、著者は巨大な風車に一人で挑む、現代のドンキホーテのようにも思えて来る。

あとがきで「私はこの本を書くために生まれて来た」と言うだけあつて、思いこみの激しさを含めて渾身の力作と言つてよく、賛否はともかく、問題提起だけでも貴重である。(英訳と韓国語訳が出ている。それくらい問題作である。)

主イエス様は自分たちの命の尊さを回復してくださいと救い主でした。周辺の存在であった女性たちは、自立しつつ同時に主に寄り頼む弟子として歩むことを教えていただきました。だからこそ主イエスさまの悲惨な死は大きな衝撃でした。墓の石は、まるで主イエス様とのこれまでの結び付きを遮る壁のようです。

それでも何かせずにはおられず、日曜の日の出と同時に墓に向かいます。

するとあの大きな石は既に動かされており、墓の中は実に空でした。

女性たちは驚きました。

そこにいた天の使いも恐ろしさを加えていきます。「ひどく驚いた」(5節)という言

葉は、マルコ福音書にのみに受動態で用いられ、非常に強い驚きや不安、恐怖を意味します。女性たちは身震いするほどに「恐れさせられた」のです。天使から「恐れることではない！」と言われたところで、また「主は起き上がった、ここにはいない」と言われた

驚く女性たち

《聖書を開いて》①

ところで、何を意味するのかも全く分からなかったのです。主の行き先をペトロたちへ告げるようにという天使の命令も聞けず、ただそこから逃げ去り誰にも何も言わずにいました。ここでマルコ福音書は終わっています。

しかし女性たちの弟子としての歩みは終わりませんでした。恐怖のあまり何もできなかった。

司祭 笹森田鶴
自ら立ち上がり、確かにキリストの復活の証人となっていくます。大きな転換の理由は聖書には記されていません

が、この女性たちが社会に再び埋没できなかったのは、戻るところがなかったからではないでしょうか。主イエスさまが起き上がった先を行かれていますしたら、女性たちは信じてもう一度新しい希望をもつて主に従って生きていくしか生きる術がなかったのではないのでしょうか。この女性たちの姿が主の復活を告げ知らせる源となっていくます。(マルコ

16・1〜8)

新生教区時報

「コミュニティ」の発刊について

広報委員長 渡辺康弘

ここに教区時報「コミュニティ」をお届けいたします。

ただ、皆さまの中には、何故、従来のスタイルを変えるのかと疑問をお持ちの方もいらっしゃると思います。

その一つの理由としては、委員長の任期交代によりその体制を維持することが難しくなったことです。ご存知のように、教区時報を毎週発行するためには、記事集め、編集、校正、印刷、発行という作業を毎週行わなければなりません。もちろん作業は分担しますが、委員長は記事集め、編集、校正には中、心的に関わりま

す。そうなるとうち3日は拘束されることとなります。ただ、私もそうですが、すべての委員長が、そのような献身的な働きができるわけではありません。

そこで、私は委員長を引き受けるにあたり、速報性を必要とするニュース記事とボ

リウムが必要な企画性の高い読み物記事を分けて発行することを提案いたしました。

そのことを前委員長と共に主教に相談したとき、以前、広報委員長をなさっていた大畑主教は、記事集めに関して懸念を示されましたが、基本的には委員会をよく相談してやりなさいと言ってくださいました。

そこで委員会に提案し、まずアンケートを取ることにしました。昨年11月でしたが、じつに120人の方から回答が寄せられました。内容は「今までの形を変えないでほしい」「記事はコンパクトに」というものから「もっとボリウムのある記事を読みたい」「字を大きくしてほしい」「写真を入れて」など様々でしたが、多くの貴重なご意見をいただきました。

ただ印象としては、「変えてほしくない」「速報性は必要」と「変えたものに期待する」「じっくりと読める記事を」という意見はほぼ半々だったと思います。

そのような中で、今年から

ニュース記事はネットで流し、各教会で印刷または掲示をお願いし、読み物としてはこのような形で発行することになりました。

まだまだ暗中模索といった状況ですが、委員会ではアンケート結果や、皆さまの今後のご意見などを参考に、よりよい教区時報を作っていくたいと思っていますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、教区時報のタイトル「コミュニティ」についてですが、これは昨年のアンケートと各広報委員が持ち寄ったタイトルの候補の中から主教に選んでいただきました。意味は「親交」「交流」ですが、私たちにとっては、アングリカン・コミュニティ(聖公会)、ホーリー・コミュニティ(聖餐式)というように身近な言葉でもあります。

この教区時報を通して、多くの人の声が響きあい、交わりがより親しく、より大きく広がることを願っています。

〈人 事〉

主教 大畑喜道

聖アンデレ教会管理牧師解任

(12月31日付)

司祭 笹森田鶴

聖アンデレ教会副牧師解任 (12月31日付)

聖アンデレ教会牧師および聖アンデレ主教座聖堂主任司祭任命 (1月1日付)

小川昌之

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

司祭 鈴木裕二

・教役者待遇調査委員会

永井信行

・教区資料保全委員会

諫山禎一郎

聖職候補生 ジョン・ストーゼン

バック

2012年1月31日 聖職候補生の認可取消

聖オルバン教会勤務解任

司祭 上田憲明

2012年2月14日 浅草聖ヨハ

ネ教会管理牧師解任

2012年3月31日 聖路加国際

病院聖ルカ礼拝堂牧師解任

司祭 ケビン・シーバー

2012年3月31日 聖路加国際

病院聖ルカ礼拝堂副牧師解任

2012年4月1日 聖路加国際

病院聖ルカ礼拝堂牧師任命

司祭 下条裕章

2012年2月14日 主教座聖堂

付を解く

2012年2月15日 浅草聖ヨハ

ネ教会牧師任命

2012年3月31日 浅草聖ヨハ

ネ教会牧師解任

2012年4月1日 立教女学院

出向命令

聖職候補生 太田信三

2012年2月27日 目白聖公会

への実習勤務命令

執事 小野里俊一

2012年3月31日 定年により

退職、聖アンデレ教会勤務解任

2012年4月1日 聖アンデレ

教会嘱託委嘱、但し無給、任期

を1年とする

司祭 大森明彦

2012年3月31日 八王子復活

教会牧師解任

聖公会八王子幼稚園チャプレン

解任

2012年4月1日 浅草聖ヨハ

ネ教会牧師任命

司祭 菅原裕治

2012年3月31日 滝乃川学園

聖三一礼拝堂チャプレン解任

司祭 須賀義和

2012年3月31日 東京聖十字

教会牧師解任

2012年4月1日 八王子復

活教会牧師任命

聖公会八王子幼稚園チャプレン

任命

滝乃川学園聖三一礼拝堂チャ

レン任命

司祭 佐々木道人

2012年3月31日 立教女学院

出向を解く

神愛教会管理牧師解任

2012年4月1日 神愛教会

牧師任命

司祭 高橋 顕

2012年4月1日 東京聖

十字教会牧師任命

司祭 井口 諭

2012年3月31日 神田キリス

ト教会管理牧師解任

司祭 橋本克也

2012年3月31日 神田キリス

ト教会副牧師解任

2012年4月1日 神田キリ

スト教会牧師任命

司祭 高橋宏幸

2012年3月31日 三光教会管

理牧師解任

2012年4月1日 三光教会

協力司祭任命

司祭 中川英樹

2012年3月31日 三光教会副

牧師解任

2012年4月1日 三光教会

牧師任命

司祭 佐々木庸

2012年3月31日 東京聖マル

チン教会管理牧師解任

2012年4月1日 東京聖マ

ルチン教会協力司祭任命

司祭 中村 淳

2012年4月1日 東京聖マ

ルチン教会管理牧師任命

執事 日高馨輔

2012年4月1日 聖アンデ

レ教会嘱託委嘱、但し任期を1

年とする

司祭 今井丞治

2012年4月1日 聖アンデ

レ主教座聖堂嘱託委嘱(八王子

地区ミッショナー)但し任期を

1年とする

司祭 小笠原愛作

2012年4月1日 小笠原聖

ジョージ教会嘱託委嘱、但し任

期を1年とする

司祭 小笠原忍

2012年4月1日 聖アンデ

レ教会嘱託委嘱、但し任期を1

年とする

司祭 河野裕道

2012年4月1日 聖愛教会嘱

託委嘱、但し任期を1年とする

司祭 関正勝

2012年4月1日 聖路加国

際病院聖ルカ礼拝堂嘱託委嘱、

但し任期を1年とする

司祭 竹内謙太郎

2012年4月1日 東京聖テ

モテ教会嘱託委嘱、但し任期を

1年とする

◇編集後記◇

ようやく「コミュニケーション」を発行することが出来ました。でも、今はほっとするというより、企画を立てて実現していくことの難しさを感じています。

たとえば、2、3Pの座談会ではなかなか人が決まらず座談会の前日に電話で頼み込んで参加していただいた人がいたり、いくつかの原稿は編集日の当日になって届きました。まさに薄氷を踏む思いでしたが無事に作り上げることが出来ました。皆様にはどうぞご感想・ご意見などをお聞かせ下さい。次号はより楽しいものが発行できるように広報委員全員張り切っていますので楽しみにお待ち下さい。(W)